

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	24・25 / 1978-1979 / 45-50
タイトル	野内川流域の昆虫相(補遺2)
著者名	市田忠夫

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 野内川流域の昆虫相 (補遺 2)

OB31代 市田 忠夫

同一の号に一人の筆による補遺が2つあることを奇異に感じられる人も多いと思われるが、本号は“ヤぶなべ”誌の慢性的発行の遅れを回復するための合併号であることを理解していただきたい。先の補遺は1978年の時点での補遺であり在学中に書いたものである。それに対し本原稿は1979年度の補遺であり、OBとを、を身ではあるが、18年ぶりに採集されたオナガアゲハを初め、記録の少なかつたムカシヤンマ、フジミドリジミ、キベリタテハなどのデータを入手することができたこと、ウラナミアカシジミヤムカシヤンマなど貴重な新記録種が現われたことなど、“野内川流域の昆虫相”として“ヤぶなべ”誌上に記録してみえたものが多かつたため、現部長の快諾の下にペンで執ったものである。

### 蜻蛉目 ODONATA

ムカシヤンマ科 Petaluridae

ムカシヤンマ Tanypteryx pryeri Selys

10-III-1979 1♂ 下折紙沢 市田

特異な生態と古い形質で知られる種で、野内川流域の昆虫相を特徴づける種の一つと存するであろう。

### 鱗翅目 LEPIDOPTERA

ヤガ科 Noctuidae

ここに紹介するものはヤガ科のセダカモクシ亜科に属するもので、先の補遺の理由と同様、葛福亮・佐藤博(1979)青森県の蛾(II)より遠沢産のものをピックアップしたものである。前回同様、採集地は主として小川目沢であるという。採集データも前回同様割愛してある。

キバラモクキリガ *Xylena formosa* Butler  
 カタハリキリガ *Lithophane rosinae* Fungeler  
 ナカグロホソキリガ *Lithophane socia* Hufnagel  
 モンハイイロキリガ *Lithophane plumbealis* Matsumura  
 カシワキボシキリガ *Lithopane pruinosa* Butler  
 ハシノキキリガ *Lithophane ustulata* Butler  
 シロクビキリガ *Lithophane consocia* Borkhausen  
 スギタニモンキリガ *Sugitania lepida* Butler  
 クバイロミツボシキリガ *Eupsilia boursini* Sugi  
 ミヤマオビキリガ *Conistra grisescens* Draudt  
 テンスジキリガ *Conistra fletcheri* Sugi  
 ホシオビキリガ *Conistra unimacula* Sugi  
 キイロキリガ *Xanthia togata* Esper  
 エゾキイロキリガ *Xanthia japonago* Wileman et West  
 ノユメトガリキリガ *Telorta divergens* Butler  
 キトガリキリガ *Telorta edentata* Leech  
 アオバハガタヨトウ *Valeriodes viridimacula* Graeser  
 オオハガタヨトウ *Blepharita melanodonta* Hampson  
 ケンモンミドリキリガ *Daseochaeta viridis* Leech

シジミチョウ科 *Lycaenidae*

ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* Hewitson

29-11-1977 1ex 辺田貞沢 岡部義文

"ヤぶなべ23号"で今後記録されような種として紹介しておいた6種の中の  
 1種。筆者と個人的な交友のある中学生の岡部君の記録したものの、やはり最下  
 の辺田貞沢より記録が現われた。

以上の21種を加えて、野内川流域から記録された昆虫相は全部で18目142科682種となった。

## 各 論

記録が少なからず、本蝶の追加記録

オナガアゲハ *Papilio macilentus* Janson

11-Ⅷ-1979 1個 下折紙沢 三橋 渡

すでに序文で述べたように筆者の知りがざりにおいて最近全く得られていなかったもので、18年ぶりの記録である。下折紙沢の滝のしぶきが射がした日影の下の生えた湿岩上に吸水のため飛来したものを0Bの三橋氏が採集した。

4モンアカシジミ *Shirozua jonasi* Janson

18-Ⅷ-1977 1ex 辺田貝沢 阿部泰文

今まで初しか記録のなが、本種、前出の阿部君が記録していた。

フジミドリシジミ *Quercusia fujisana* Matsumura

10-Ⅷ-1979 1♀ 下折紙沢 市田

キベリタテハ *Nymphalis antiopa asopos* Fruhstorfer

13-Ⅷ-1978 2ex 梅ハギ沢 三橋 渡

10-Ⅷ-1979 1♂ 下折紙沢 市田

夏季の記録は少なからず、この他にも1977年8月に目撃されており、流域内での発生は確定と思われた。

ゴマダラチョウ *Hestina japonica* C. et R. Felder

13-Ⅷ-1978 1♂ 三本木 三橋 渡

1977 目撃 辺田貝沢 阿部泰文

古い越冬幼虫の簡單な採集記録だけでは、まじしなからず、本種、確定が、確定な標本が得られた。辺田貝沢でも阿部君が目撃しているのは興味深い。尚、三橋氏によれば昨年(1978年)にゴマダラチョウが多数見られた三本木のエゾエノキに今年はゴマダラチョウが見られたが、本という。

## 今後記録されような蝶

筆者は「ヤブをべ23号」に以降記録される可能性の欠を蝶としてウラナミアカシジミ、ウラジロミドリシジミ、ミヤマカラスシジミ、ゴマシシジミ、キョウモン4ョウ、オオムラサキの6種を書いた。この内ウラナミアカシジミは前述の通り最下の支流辺田貝沢より記録された。今回はウラナミアカシジミを除いた全種にオオゴマシジミを加えた6種の分布可能性を論じてみたい。以上の6種の内飛見の可能性の最も高いものはオオムラサキであろう。オオムラサキの産地は野内川と流域を挟する東西いずれの小河川からも飛見されており、食樹を同じくするゴマダラ4ョウは流域からも飛見されている。飛見の可能性は辺田貝沢、東岳に高いであろう。次にミヤマカラスシジミである。この蝶の食樹であるワロウモドキが遠沢に多いというので、冬期卵調査をすれば飛見できる率が高いであろう。東岳にからも飛見されるがも知れない。ウラジロミドリシジミの食樹カシワはまだ流域内では見えていないが、ウラジロミドリシジミ自体の産地は流域付近に点在している。この蝶も流域内からも飛見されるとしては辺田貝沢、東岳など調査があまり進んでおらず、しかも比較的乾燥な所からであろう。ゴマシジミとキョウモン4ョウは湿地に生えるナガボノシロウシモコウを食すものである。2種とも流域付近の既知の産地はいずれも流域の西側からのみである。この2種が飛見される可能性は6種の中では低いものであると思う。飛見されるとしては辺田貝沢が本流と合流する付近、すなわち築木館の水田付近からであろう。以上5種の流域付近に於ける既産地を次ページに図示するので参考にされたい。以上に述べた5種とは別格としてオオゴマシジミが上げられる。この種は上記の5種がいずれも平地生のものであるのに対して、山地性のものである。流域の付近からは今までに記録はされていない。石沢・俊井(1975)は遠沢・姥山・戸山の蝶類で、平沢に於いて本種の食草であるヒキオコシの群落を飛見したこと、本種らしきものを目撃したことを記し、本種の分布可能性を述べている。また、津軽昆虫同好会の八達も戸遠沢でヒキオコシの群落を飛見しているということも筆者に教示してくれた。本種の分布の可能性



性も決して低くはないであろう。発見されたらやはり、平沢-戸邊沢が有力である。

ゲンジボタル *Iuciola cruciata* Motschulsky

23号の各論ではゲンジボタルについて述べることを怠りしてしま、たのでここで述べたいと思う。滝沢のゲンジボタル産地は筆者の知るかぎりにおいては分布の北限であ、たが、現在では産地の環境が激変してしまい、ここ2~3年確認されていず、絶滅したのではないかと心配されている。

文 献

石田昇三(1969)原色日本昆虫生態図鑑 II トンボ編。保育社、大阪。

高西亮・佐藤博(1979)青森の蛾(II)。訪蝶壇7, 4-7。

永瀬淳(1978)湯ノ沢夜間採集記。Celastrina 1, 16-17。